

## 第6学年学級活動（2）学習指導案

日 時 令和8年2月6日（金）  
第5校時 13:30～14:15  
学校名 日野市立平山小学校  
対 象 6年4組 27名  
会 場 6年4組教室  
授業者 東亮佑（教諭）  
森貴章（給食調理員）

1 題材名 「平小 給食パクパクプロジェクト」  
学級活動（2）エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

### 2 題材のねらい

食材の栄養素を知り、学んだことを他学年に伝えようとする。

### 3 題材について

#### （1）児童の実態

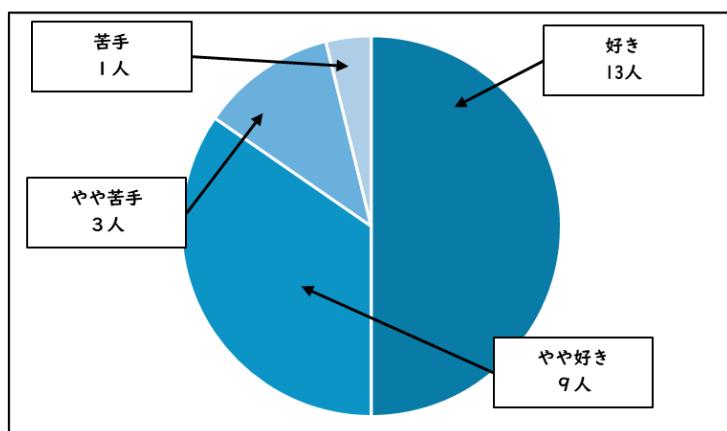
本学級は第5学年から持ち上がりの学級である（男子13名女子14名）。学級活動（1）の学級会では素直な意見や自分の気持ちを伝える児童が増えてきた様子がある。日頃の給食では、第5学年の頃より食缶が空になることが増えてきた。しかしながら、偏食気味の児童が数名おり、好き嫌いが明確に分かれているクラスである。そして配膳の際に少なめの量で受け取ったにもかかわらず、苦手な食材を更に減らしたり、児童によってはスープを全く飲まなかったりと、特定の食材や料理には強い抵抗が見られる。きのこ類や野菜について特に好き嫌いが分かれ、残食傾向にある。

#### 【給食・食事に関するアンケート】

調査方法：選択式・記述式アンケート 調査時期：令和7年11月

調査対象：6年4組27名 未回答児童1名

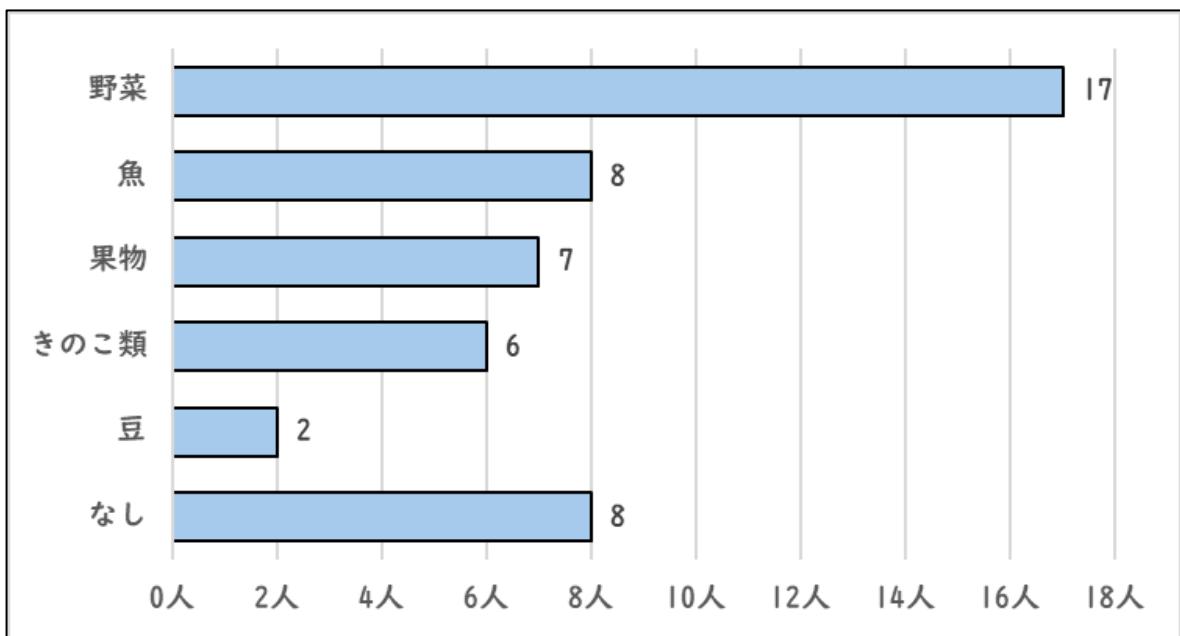
##### ① 給食は好きですか。



② 給食に出てる好きな食材・おいしいと思う食材はなんですか。(複数回答可)

「肉」・・・5名  
「みかん」・・・4名  
「じゃがいも・にんじん・いちご」・・・2名ずつ  
「大根・まいたけ・厚揚げ・しいたけ・さつまいも・卵・鰹節・しいたけ・米・マカロニ」  
・・・1名ずつ  
なし・・・2名

③ 給食に出てる苦手な食材はなんですか。(複数回答可)



#### 【分析・考察】

①の給食の好き・嫌いについては、「好き」「やや好き」と回答した児童は26名中22名を占めた。②の好きな食材に関しては、「肉」と回答した児童が5名、「みかん」と回答した児童が4名と、③で比較的苦手と回答されていない食材が選ばれていた。③の苦手な食材に関しては、「野菜」と回答した児童が17名、「魚」が8名、「果物」が7名、「きのこ類」が6名、「豆」が2名という結果になり、「苦手な食材はなし」と回答したのは8名いた。③の結果からは、苦手な食材がある中で、給食を食べている児童が多くいることが分かった。

以上のアンケート結果により、本学級の児童は、給食について好きと回答する児童が多い一方で、野菜・魚・果物・きのこ類など苦手な食材がありながら給食を食べていることが分かった。これらの実態から、苦手な食材の栄養素や給食調理員の工夫を学んだり、他学年に学びを伝えたりする活動を通して、苦手な食材でも食べようとする意識を高める必要がある。

## （2）題材設定の理由

小学校学習指導要領特別活動の学級活動（2）エ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」を受けて設定した題材である。

児童の実態を踏まえ本題材では、日頃の給食で残食の確率が高い食材に着目し、その栄養素について知ることで、その食材を食べる意義について気付かせていく、自分自身の食生活を見直す観点を育てることをねらいとする。また給食調理員から学校給食を作る上での工夫を説明してもらい、作り手の思いを気付かせていく。

また第6学年として、縦割り班活動やクラブ活動、委員会活動、第1学年の見守りなど様々な場面で学校を支えおり、児童も学校のために意欲的に行動する姿が見られている。そこで本題材でも学校をよりよくするために自分たちに何ができるかという意識をもたせ、行動させていく。

また本時の学習後、学んだことを他学年に伝えるための成果物の作成は国語科、「今、私は、ぼくは」の他学年に伝える単元で行う。活動の中で、学んだことを生かし全校児童に残食を減らすための工夫を呼びかけ、学校生活の中で実践しようとする力も育てていきたい。

## 4 第5学年及び第6学年の評価規準

よりより生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸問題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸問題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

## 5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
アンケートに記入する。	普段の食事や給食について考えるよう知らせる。	アンケートを記入し、これまでの自分の生活について振り返り、食生活について課題意識をもつことができている。（思考・判断・表現） 【アンケート】

## 6 研究主題に迫る手だて

### (1) 個別最適・課題解決

#### ① 児童の実態を把握し課題を確認するための事前アンケート

日頃の給食や食事について、事前に学年でアンケートをとる。アンケート結果を見ながら対話をし、嫌いな食事が残食として出やすい傾向にあることを気付かせる。アンケート結果や正しい知識を基に自分の生活を振り返り、学んだことを生かして取り組みを考え、全校の残食について呼びかける活動に生かしていく様子。

#### ② 専門的な知識を学ぶためのT 2体制

「さぐる」の段階で、苦手な食材でも、大切な栄養素があることに気付かせる。そのために給食調理員から専門的な知識を教えてもらい、課題解決につなげていく。給食を作る上での工夫や思いを伝え、作り手の生の声を聞くことで給食に対する考えが変化することをねらっていく。

### (2) 対話・協働

#### ① 学んだことを生かして実践方法を考えるための授業の流れ

まず「つかむ」で事前に実行したアンケートを基に、残食について課題意識をもたせる。次に「さぐる」の段階で、給食調理員の話を聴いて残食率の高い食材の栄養素について押さえ、正しい知識を身に付けさせる。また友達との対話からその食材を食べることで様々なよさがあることに気付かせる。次に「見付ける」の段階で、対話をしながら学んだ内容を他学年へ伝える方法について考える。また、児童から出た他学年への伝え方については板書に残すことで、自分たちに合った実践方法を見付け選択できる様子。次に「決める」の段階では、他学年に学んだ内容の伝える方法を各グループが決め、具体的な実践目標をもち、実現を目指せる様子。

#### ② 成果物作成のためのICT活用

本題材の学習では、児童が学んだことや調べたことを他学年に伝える活動がある。設定した食材の栄養素について調べるために学習者用端末を用いて成果物を作成する。班で話し合った食材をどのようにまとめるかについて話し合い、様々な方法で発表できるようにしていく。

## 7 本時

### (1) 本時の目標

食材の栄養素について学び、学んだことをどのように伝えるかについて考える。

### (2) 本時の展開

	学習内容・学習活動	○指導上の留意点や配慮事項		評価規準
		T 1 (学級担任)	T 2 (給食調理員)	
導入つかむ 7分	<p>1 自分たちの食事・給食についてのアンケート結果を見て話し合う。 T アンケートの結果を見て、気付いたことはありますか。 C 魚が苦手な子供が多い。 C 野菜が苦手な子供が多い。 C きのこ類が苦手な子供が多い  T 今日は平山小学校の食品ロスを減らすためにどんなことができるかみんなで考えていきます。</p>	○事前アンケートから児童の食べ物の好き嫌いが分かるランキングを作成し、苦手な食材について確認することで児童の食事への興味・関心を高める。		
展開さぐる見付ける 28分	<p>2 自分たちの食生活を振り返り、苦手意識の高い食材の栄養素やよさについて知る。 ◎アンケートで苦手という割合が高かった野菜、きのこ類、魚、海藻の栄養素について学ぶ。また給食を作る上での思いや工夫を伝える。</p>		○事前アンケートで苦手だったり、残食率が高かったりした食材について、よさや栄養素を知ることで、苦手な食材も必要であることを理解させる。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           余る食材のよいところを他学年に教える方法を考えよう。            ~平小 給食パクパクプロジェクト~         </div>				

	<p>3 学んだ内容を他学年に伝えるために、どのような実践方法で行うかを考える。</p> <p>T 今、学んだことを他学年に伝えて、平山小学校の食品ロスを減らしていきましょう。どのような伝え方がより効果が生まれると思いますか。</p> <p>C 動画を作って全校に見てもらう。</p> <p>C 放送でその日の食材の栄養素を伝える。</p> <p>C ポスターを作って掲示する。</p> <p>T 班の中でどの食材を伝えるか考えましょう。</p> <p>C ししゃもの栄養素について伝えようかな。</p>	<p>○班で話し合い、実践方法を出し合わせる。どの食材の栄養素をどのように伝えるかを決めさせる。</p> <p>○班で出し合った意見を学級内で共有し、多くの意見から自分たちの実践方法を考えられるようする。また発言で出なかつた実践方法でも許容する。</p> <p>○実践方法とテーマに選ぶ食材を班で決め、本時以降の学習につなげられるようする。</p>		
まとめる 決め 10 分	<p>4 自分たちの実践方法を決める。</p> <p>T これから自分たちで準備をして、他学年に食材のよさを伝えていきましょう。</p>	<p>○実践方法を決め、ワークシートに記入し、何をどのように伝えていくのかを明確にさせる。</p> <p>○一人での活動が苦手な児童もいるため、班で取り組ませる。</p>		<p>○自分たちのテーマと実践方法を決めることができるのである。(思考・判断・表現) 【ワークシート・観察・発言】</p>

(3) 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	評価方法
自分たちが考えた実践方法で学校内の児童に食材の栄養素について伝える。 国語において「今、私は、ぼくは」の単元で実施する。	児童が自動的範囲を超えないように担任が声掛けを行う。 活動が苦手な児童には声を掛け、参加を促す。	自分たちが決めた実践方法について進んで取り組んでいる。 (知識・技能) (思考・判断・表現) <b>【成果物】</b>
自分が立てためあてや取組などについて振り返る。	家庭環境に配慮し、できた・できないではなく、意識できたかで価値付けるようにする。	具体的なめあてや実践方法に、進んで取り組んでいる。(思考・判断・表現) <b>【ワークシート・観察】</b>

(4) 授業観察の視点

- ・「さぐる」の段階で給食調理員から専門的な知識を学ぶことが、課題解決の動機付けにつながっているか。(個別最適・課題解決)
- ・班での活動を通して、食材の栄養素について知り、具体的な実践目標をもつことにつながったか。(対話・協働)

(5) 板書計画

平小 給食パクパクプロジェクト			
つかむ	さぐる	見つける	決める
アンケート結果	<input type="radio"/> 野菜の栄養素 <input type="radio"/> 魚の栄養素 <input type="radio"/> 海藻の栄養素 <input type="radio"/> きのこ類の栄養素	どんな方法で伝えますか <input type="radio"/> 動画をつくろう <input type="radio"/> 放送で呼びかけよう <input type="radio"/> ポスターをつくろう	各班の実践方法